

決算報告にあたって

東京神学大学 財務理事 長山信夫

2017年度決算報告にあたって、まずもって東京神学大学のために祈り支え続けてくださる諸教会、兄弟姉妹、同窓生、キリスト教学校諸団体の方々に深い感謝を表したい。後援会の支援は最も安定した財政的支えであり、目標額はそのまま予算に計上させていただいている。

2017年度より始まった新長期財政計画はほぼ目標を達成していただいた。学校運営の日常を支える第4号基本金は 26百万円を維持し続けることができた。キャンパス整備計画が発表され、5年間で3億円の募金を諸教会に平行してお願いしている最中のことであり、力強い主の豊かな恵みを覚えている。

伝道者養成のための積極的計画に多くの方々の賛同が寄せられ、さらにいくつかの教会また兄弟姉妹から特別のささげものがなされ、寄付金収入は予算を大きく上回ることとなった。キャンパス整備計画も順調に進められていくことを確信している。

日本の教会の教勢の低下は深刻さを増している。にもかかわらず「収穫のために働き手を送ってくださいるように収穫の主に願いなさい。」との御言葉の前に祈り行動する日本の教会の健全な信仰がここにある。

収入の三本柱の他の二つ、「学生生徒等納付金」と「補助金収入」が予算と決算が同額なのは当初予算を実情に合わせて補正した結果である。漸減である。献身者が切に望まれる。信じて祈り続けなければならない。